

第一歩 1 見苦しさ 2

(や=山田 学) [☆☆☆第一歩☆☆☆☆]

1989年「ベルリンの壁崩壊」から29年弱。2018年6月12日、今度は、米朝首脳をあひだの「壁」が、いちおう、とりはづされました。

昔のことばで言へば、「東西体制」の融和、これからのことばで言へば、欧米文化とアジア文化の対話へ、〈[第一歩の一日](#)〉だつたでせうか。むろん、今後の具体的展開につき、慎重に、見守り続けるしかありません。

ドナルド・トランプ大統領と、金正恩委員長、まづは、まさに歴史的な会談を、ご苦労様でした。

東京新聞6月13日朝刊3面によると、金正恩氏は、両首脳の一対一会談冒頭に、「... 世界の多くの人々はこれを SF 映画や空想だと思っただろう。」と述べた。また、同氏は、署名式において、「... 世界は恐らく重大な変化を見ることになるだろう。...」と述べた。この自信は、どこから来るのか。やはり、今後の

具体的展開につき、慎重に、見守り続けるしかありません。

とくに、朝鮮半島の非核化のみならず、〈段階的世界核軍縮〉は、どのやうに実現していくのでありませうか。

一方、同紙同日朝刊28面によると、『『よくここまで来た』。北朝鮮による拉致被害者・横田めぐみさん=失踪当時(一三)=の母早紀江さん(八二)は川崎市内で会見し、米朝首脳会談の実現を『奇跡的なこと』と評価した。...』そして、拉致問題も、奇跡的に解決されていくのでありませうか。やはり、今後の具体的展開につき、慎重に、見守り続けるしかありません。

☆☆☆見苦しさ☆☆☆☆まだ20歳ながら、正々堂々の記者会見をした、あの日大アメフト選手ぐらゐが、未来への希望だつたでせうか。それにひきかへ、一定の大人たちが、見苦しい限りです。たとへば、「立正安国」も何もあつたものではない。

ある人が、冗談で、だれか安倍首相に“悪質タックル”する人はゐないのかと、言つてみました。

この1年間、「安倍首相も、麻生財相も、何ら問題はない。」「カラスは白い。」と言ひくるめるパズルを、解かせられるやう誘導された。さういふ、いはば無理筋への奴隷作業へ、誘導された。本来、健康平和な現実認識を追究していく悦びこそが、認識(とくに概念や規範)を発達させた生物たる、人間としての

本質的な悦び。それなのに、さういふ悦びから離れ、学校歴や職場歴などの名誉も忘れ、奴隷作業に、関与した。この1年間、いはゆる“もりかけ”問題などに関係した、一定の大人たちの、見苦しさであり、哀れさです。人生とは、何なのだらうか。青少年への模範とは、何なのだらうか。]